兵庫県立人と自然の博物館

20年の
あゆみとこれから

20th HITOHAKU

これまでのありがとう、
ここからのエールを

はたち

ひとはく二十歳

これからも皆様とともに、あゆみつづけます

1992 年 10 月の開館以降、
ひとはくは多くの方々に支えられ、
様々な活動を展開してきました。
二十歳（はたち）を迎えるにあたって、
これまでにお世話になった方々からいただいた
お祝いと応援メッセージの一部をご紹介します。
（順不同）

兵庫県立有馬高等学校 校長 足立宣孝 さん

人と自然の博物館、20 周年本当におめでとうございます。

有馬高校では、平成 12 年に、人と自然の博物館と同じ名前の「人と自然科」が誕生しました。三田農林学校の流れを受けた農業教育に、環境教育を加えて学科を改編しました。

平成 18 年には、人と自然の博物館と連携協定に調印し、博物館のご協力を得て、環境学習について、より専門的な知識・技能の習得を目指す、人博連携セミナーを行っています。

また、ボルネオジャングル体験スクール等、何もかも、お世話になっております。

今後、益々ご発展を祈念するとともに、連携協力をよろしくお願いいたします。

人と自然の博物館 初代館長 加藤幹太 さん

ひとはくの 20 周年記念日を心からお祝い申し上げます。

準備室の時から開館式までの館員の皆さんの努力と熱意、貝原元知事を始め県当局の方々のご支援を心から感謝しております。

その後歴代館長のもとで、すぐれた企画を次々と打出され、多くの人に役立つ生涯学習機関として成長されたことは慶賀に堪えません。今後のご発展を祈ります。

人と自然の博物館 名誉館長 河合雅雄 さん

高度な文明の急激な進展は、自然を破壊し、人の心を荒ませました。悠久の生物の歩みを見つめ、人と自然が調和する世界を創出することが、今求められています。

ひとはくは 20 歳、若い力があふれる青年になりました。人と自然の調和とは何かを人々に感受させ、また実践する共生博物館の構築に、新しい地平を拓いて下さい。今後のご発展を祈ります。

兵庫県立有馬富士公園 元コーディネーター 小坂真也さん（公益財団法人兵庫県園芸・公園協会）

20 周年おめでとうございます！有馬富士公園での住民の参画と協働による公園づくりにおいて、ひとはくの皆様と一緒に悪戦苦闘したことは、公園にとっても、私にとっても、大きな財産となっています。これからも、公園や花緑の世界に新風を巻き起こしていただくことを期待するとともに、今後のさらなる飛躍をお祈りいたします。

NPO法人 人と自然の会 前理事長 佐竹千代子 さん（写真右端）

ひとはくでの日々は私の第二の青春でした。卒業以来初めて真剣に調べ物をし、悩み、仲間と共にドリームスタジオの準備をしました。普通のおばさんでもやる気さえあればどんな質問や無理難題にも協力を惜しまない研究員、博物館のスタッフに支えられ新しい試みにも挑戦できました。平成 23 年まで 16 年間のひとはくでの経験は私の宝物です。これからもみんなの博物館としてより一層の飛躍を願っています。

仙台市六郷児童館　橋本ゆう子さん

3・11の東日本大震災後、「ひとはくKidsキャラバン」の出前イベントを開催していただき、たくさんの感動と元気をいただきました。深く感謝いたします。

仙台開催の「こども☆ひかりフォーラム」での繋がりを嬉しく思うとともに、プロジェクトの今後のご活躍により、被災地の子どもたちが復興を担う青年へと成長していくことを期待しております。

マレーシア国立サバ大学 熱帯生物学・保全研究所 元所長 マリアッティさん
Prof. Datin Dr. Maryati Mohamed

Congratulation to Museum of Nature and Human Activities, Hyogo (MNHAH) on its 20th Anniversary. Although, it may seem not too long a time, many people have benefitted so much from its formation, and one of them is University Malaysia Sabah (UMS). The benefits were in many forms — providing expert, assistance in developing the reference collection in BORNEENSIS, training of staff and students, research to produce joint authorship of many publications, giving opportunity in exhibition of the Japan Flora 2000 at Awaji Island and finally, joint implementation of the Bornean Biodiversity and Ecosystem Conservation programme. The relationship bloomed into an institutionalized one, benefitting not only me, but two institutions (UMS and MNHAH) and two governments (Malaysia and Japan). And all these, stemmed from a common aspiration to conserve planet earth. I cannot but thanks to great friends like Prof. Kawai, Prof. Iwatsuki, and ALL those at MNHAH. Arigatogozaimas. We share the same feeling and aspire to do all possible to make sure conservation will take place everywhere on earth, through all generations. For the future generations we planned and implement together the Jungle School Programme, which I think is a very good model to give experience and forge international cooperation among young people for future conservation. Again, I congratulate and wish Hyogo Museum all the best. GOOD LUCK FOR THE FUTURE. ますますのご発展を。

キリンビール株式会社 神戸工場長 箕浦直哉さん

キリンビール株式会社神戸工場ではひとはくと一緒に兵庫県で絶滅が心配されているコイの仲間の小さな魚、カワバタモロコの増殖に成功しました。この貴重なカワバタモロコを近隣の学校ビオトープなどに放流する取り組みも連携して展開しています。これからもともに地域の環境創造に取り組んでゆきましょう。

加東市 市長 安田正義さん

兵庫県立人と自然の博物館「ひとはく」が二十歳を迎えられたこと心からお祝い申し上げます。

海と山に囲まれ、多様な自然を持つ兵庫県は、人と自然が共に生きる日本の縮図とも言えます。ひとはくと加東市との協力協定も4年目を迎え、「まちまるごとミュージアム」を共催するなど、その絆をさらに大切にしたいと思います。

ひとはくの今後ますますの飛躍を心からご祈念申し上げます。

大阪市立自然史博物館 館長 山西良平さん

西日本の自然が凝縮している兵庫県に、ひとはくはこの20年のあいだ根を張り、枝をひろげてきました。「ひとはくキャラバン」などのアウトリーチ活動は560万県民に地元の自然のすばらしさを伝えています。この節目に、丹波竜発掘の成果も取り入れた展示室の全面リニューアル、願わくば新館建設の構想が進むことを心から期待しています。

20年のあゆみ

この 20 年、ひとはくは
様々な社会の課題に応じた取り組みを実践してきました。
ここでは、社会・兵庫県の動きと
ひとはくの 20 年間のあゆみを振り返ります。

開館前

1969
▼「県立自然科学博物館設置について」県議会に請願

1973
▼兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動の分野の博物館設置について要望書の提出

1976
▼IFHP（住宅・都市及び地域計画国際連合）兵庫国際会議が開催され「人間居住環境研究センター」を設置する必要性を提唱

1983
▼兵庫県が「全県全土公園化構想」の推進を開始

1986
▼兵庫県立自然系博物館基本構想（報告）を策定
▼兵庫 2001 年計画の中で、「高速道六基幹軸」構想を打ち出し

1988
▼人間居住環境博物館構想を取り入れた博物館として、三田市深田公園内ホロンピア館を活用して建設することが決定

1989
▼兵庫県教育委員会社会教育・文化財課内に、自然系博物館（仮称）設立準備室を設置

1990
▼自然系博物館設立準備室長に伊谷純一郎京都大学名誉教授が就任

1991
▼自然系博物館設立準備室長に加藤幹太京都大学名誉教授が就任

1992
●初代館長に加藤幹太京都大学名誉教授が就任
●人と自然の博物館内に姫路工業大学自然・環境科学研究所が設立
●ジーンファーム完成
●人と自然の博物館開館 ①
●総合共同研究開始 A

①

1994
●植物化石コレクション受贈

②

1995
●河合雅雄京都大学名誉教授が館長に就任
●震災発生直後より緊急調査や提言活動、被災者支援とそのネットワーク化に参画 ②
●植物標本庫が国際的な植物標本庫リスト Index Herbariorum に“HYO”として登録

③

1996
●ミュージアムフェスティバル開始 ③

1997
●マレーシア国立サバ大学と国際学術交流協定を締結
●文部省の科学研究費補助金取扱規定による研究機関に指定

④

1998
●第 1 回ボルネオジャングル体験スクール開講 ④
●世界の 3 大ハチコレクション受贈

⑤

1999
●NPO 法人「人と自然の会」と協力協定を締結 ⑤ B

1992

ひとはく開館

1990年代前半～
バブル崩壊
バブルがゆるやかに崩壊しはじめ、日本経済に暗い影を落とし始める。

1995
阪神・淡路大震災発生
1 月 17 日に起こった大震災は、都
域を中心に未曾有の人的・物的被
を発生させた。

1998
トライやる・ウィーク開始
兵庫県内で中学生が地域活動や仕
体験に参加するプログラムが始ま
た。

社会・兵庫県の動き

A 総合共同研究
県政課題等の解決・提言に向けた大研究テーマを選定し、原則として全研究員が共同で取り組む長期研究です。開館時から継続的に行われており、成果の一部は書籍などにもまとめられています。

B NPO法人「人と自然の会」
博物館のボランティアグループが設立した NPO 法人です。博物館と対等なパートナーとして、自発的にセミナーやイベントなどの様々な生涯学習プログラムを企画・実施しています。

C 博物館の新展開
社会の流れや要求に対応した博物館に生まれ変わるための方針を策定しました。生涯学習の支援と自然・環境に関わるシンクタンク機能の強化を図るとともに、組織と管理運営体制の改革を行いました。

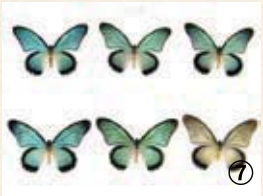
2000
- 兵庫県におけるワイルドライフ・マネジメント推進の方向検討を支援
- 県立有馬富士公園運営計画策定に参画 ⑥

2001
- 博物館事業の新展開を公表 C
- 江田茂氏コレクション受贈 ⑦
- 受託研究開始
- 愛称が「ひとはく」に決定
- 「ひとはくセミナー倶楽部」の運用開始

⑥

2002
- 岩槻邦男東京大学名誉教授が館長に就任、河合前館長が名誉館長に就任
- 小林桂助氏コレクション受贈 ⑧ D
- 2006 年度までに実現させる数値目標と考え方を示した「中間目標」を公表
- 開館 10 周年式典開催
- ひとはくキャラバン始動 ⑨

⑧


⑦

⑨

2003
- 高校連携セミナー、夏季教職員セミナーを開始
- ひとはくサロンの開設、情報システム更新
- フロアスタッフ設置
- リサーチプロジェクトの実施 ⑩

2004
- 県立大学の統合に伴い、博物館に設置する研究所を「兵庫県立大学自然・環境科学研究所」に改称
- 自然環境モノグラフ 1 号出版 ⑪
- ひとはく地域研究員養成事業を開始
- 西日本自然史系博物館ネットワーク設立に参画
- 外来種問題検討プロジェクトを開始
- 学校との連携で「教材開発研究会」が発足
- ビジター数 13 万人を突破

⑩

⑪

2000 — 2002 — ひとはく十歳

2000
兵庫県教育委員会
行政組織規則の改正
改正により博物館の組織も大きく改編され、規則の改定に至った。

2001
兵庫県「夢ビジョン」の策定
兵庫県が県内 8 地域における 21 世紀初頭の地域づくりの指針を作成した。
地球規模生物多様性情報機構（GBIF）発足
生物の情報を網羅的にアーカイブして、生物多様性の研究ならびに保全と利用を支援しようとする国際共同事業が始まった。

2004
特定外来生物法の制定
海外から持ち込まれる生物の中で、日本の生態系に悪影響を与える外来種が指定された。
豊岡市で水害発生
超大型台風の影響で円山川が決壊し、市街地の大半が水没する被害が生じた。

D 小林桂助氏コレクション
鳥類の研究者として知られる、故小林桂助氏が収集された１万点以上の鳥類からなる世界トップレベルのコレクションが寄贈されました。博物館では、研究や展示など様々な形で資料を活用しています。

E 共生のひろば
兵庫県内の各地域で活動している市民団体や学校団体、企業などが日頃の研究や活動内容を発表し、交流する場として実施しています。毎年 2 月 11 日の恒例行事となり、年々「共生の輪」が広がっています。

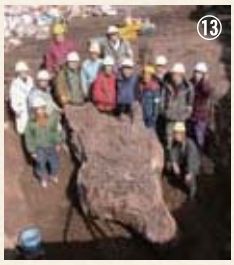
F ひょうご恐竜・哺乳類化石プロジェクト
丹波で恐竜化石が発見されたことを受け、調査研究やまちづくり支援を効果的に推進するために、恐竜・化石タスクフォースを設置しました。展示や学習プログラムも地域と連携しながら展開しています。

2005
●第１回共生のひろば開催 ⑫ E

⑫

2006
●猪名川町と協力協定を締結
●GBIF・科学系博物館情報ネットワーク推進プロジェクトを始動

2007
●人と自然の博物館基本構想を策定
●ひょうご恐竜・哺乳類化石プロジェクト始動 ⑬ F
●大学院教育が始動
●兵庫県立大学附属中学校と協定を締結


⑬

2008
●人と自然の博物館基本計画を策定
●ひとはく恐竜ラボがオープン ⑭
●生物多様性ひょうご戦略の策定を指導
●特別展示「ファーブルにまなぶ」展開催

⑭

2009
●加東市と協力協定を締結 ⑮
●佐用町昆虫館と連携協定を締結、洪水被害を受けた同館への支援活動を開始 ⑯
●環境学習体験への本格的な取り組みを開始
●兵庫県産維管束植物目録が完成

⑮

⑯

2010
●COP10 生物多様性交流フェアに出展
●「ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま」発行
●兵庫県版レッドデータブック改訂作業を指導
●篠山層群における恐竜・哺乳類化石等に関する基本協定を締結
●いきものかわらばん実施

⑰

2011
●キッズひとはく推進室が発足、キッズキャラバンを展開 ⑰
●山陰海岸の各施設でジオキャラバンを実施
●兵庫県立並木道中央公園で小型恐竜の化石を発見
●生物多様性協働フォーラムを開催
●東日本大震災「被災地支援キャラバン」2011 を実施 ⑱
●津波によって被災した学術標本のレスキュー活動を実施

⑱

2005 — 2010 — 2012

2005
コウノトリの試験放鳥に成功
コウノトリの野生復帰事業を進めている兵庫県が、第 1 次試験放鳥に成功した。

2006
丹波で恐竜化石発見
篠山川河床の 1 億数千万年前の地層から竜脚類の化石が発見された。

2007
兵庫県で環境体験学習スタート
県内の公立小学校 3 年生の授業で、体験型環境学習の実施が始まった。

2008
生物多様性基本法成立
同法の成立によって生物多様性地域戦略が法定計画として位置付けられた。

2009
台風 9 号による水害発生
佐用町などの西播磨地域が台風による豪雨で洪水などの被害にあった。

2010
名古屋市で COP10 開催
国連が定める国際生物多様生年に、生物多様性条約の第 10 回締約国会議（COP10）が開催された。
山陰海岸が世界ジオパークに認定
山陰海岸ジオパークが日本で 4 番目の世界ジオパークに認定された。

2011
東日本大震災発生
3 月 11 日に発生した大震災は、東北地方の太平洋岸を中心に、津波、原発事故などの甚大な被害をもたらし、現在も不休の復興活動が行われている。

ひとはく二十歳

博物館と地域の未来を拓く

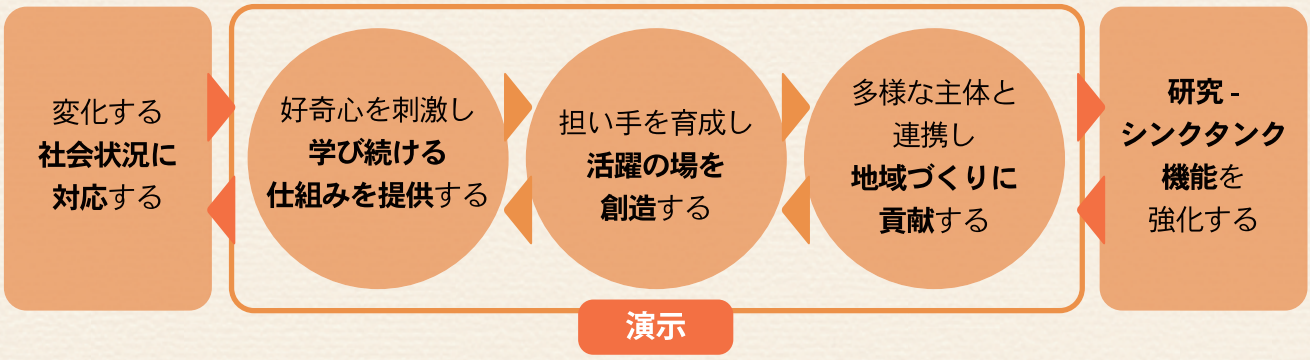
ひとはく将来ビジョン

ひとはくは、開館20周年の節目にあたり、これまでの成果を振り返るとともに、変化する社会状況に対応しながら、いま、実践すべき戦略を検討し、これからのひとはくが目指すものを示した「ひとはく将来ビジョン」を描き上げていきます。このビジョンは、ひとはくの今後あるべき姿を描くと同時に、日本の博物館の進むべき方向を示唆するものであると考えます。ひとはくは、これからも皆さまとの協働を通じて博物館と地域の未来について思索し、行動し、提言し続けていきます。

創造と共生の舞台・兵庫で県民のみなさんと共演する生涯学習院

生涯学習院とは、①驚きや喜びを感じ、自発的で自律的な学びを支える／②県民の参画と協働で、知識だけでなく創造性を育む／③年齢や立場などによる、様々な学習のかたちに対応する／④感じるから伝えるまで、トータルな学習プロセスを提供する／これらを実現できる「県民が集い、学び合う参加・交流型の博物館」です。

【実現に向けた5つの行動指針】



■ 5つの行動指針で進める「生涯学習院」

これまでひとはくでは、多彩なセミナーや館外へのアウトリーチ事業などによって、県内外の多くの方々に様々な学習の機会を提供してきました。これまでの展示とは違った、利用者とモノ、利用者と空間との間に人が介在することで、興味を持ってもらったり、参加してもらったりすることができる「演示」という仕掛けを用いて、学びのサイクルを生みだすことを試みてきました。

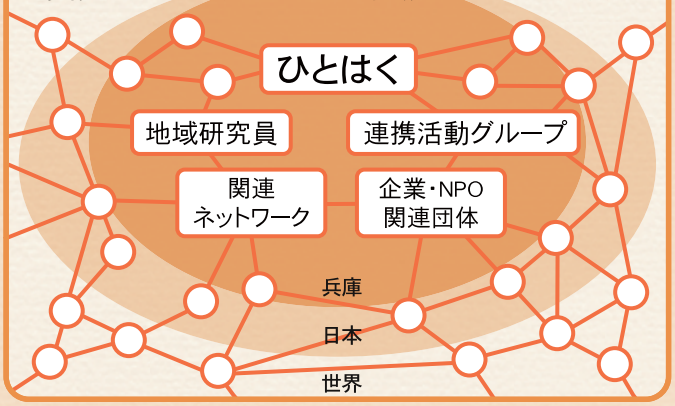
今後は、このような取り組みをさらに進めていくために、上図の５つの行動指針を定めて、さらなる展開を図ります。

【来館者が主役となるような演示の舞台としてのハード整備】

■「演示」による生涯学習プログラムのさらなる実践

演示の手法を活用した生涯学習プログラムによって目指すべき博物館像を実現して行きます。先行して実践を進めてきたソフトだけでなく、未だ実現に至っていないハードについても、博物館の根幹機関である収蔵庫や演示の実践の舞台について整備を進めていきます。

【多様な主体とのネットワークによる組織・マネジメント力の強化】



■多様な主体との連携によるマネジメントの仕組みづくり

多様な主体が関われるオープンなネットワークを形成するため、マネジメント組織の設立や民間との連携を図り、ひとはくの活動効果をさらに高めていきます。また、兵庫県立大学と一体となった組織体制をより一層活用し、ひとはくにとっても大学にとっても相乗的な効果があげられるような仕組みを構築していきます。

館長からのご挨拶

岩槻邦男

ひとはくは開館して 20 年の歴史を積み上げてきました。最初の 20 年はこの機関のかたちを創り上げてきた期間です。描いた理想に向かって、最初の 10 年、その 10 年の自己評価にもとづいて構築してきた新展開の 10 年と、たくさんの人々と協働し、多くの人々に助けられ、見守られながら、時代に合わせて目標を実現するかたちを整えてきました。とにかく、一生懸命に、自分たちの理想を追ってきた 20 年でした。

区切りごとの自己評価は、次の 10 年をどのように組み立てるかの理想を描く基盤にもなります。博物館等施設を廻る厳しい環境がありますが、一方では、生涯学習を希求し、知的集団の助言を求める期待もますます強くなっています。これからの 10 年に向けて、ひとはくはますます自分たちの足腰を強め、培った力で期待される役割が果たせるよう精一杯の活動を展開します。

博物館のような施設は、どんなにがんばっても自分たちだけで何かができるものではありません。わたしたちは、人の生業を向上させ、自然との関係性をよりよいものにするための生き方を、すべての人々と共有することを最終的な目標に掲げ、今日からもまた堅実に行動を積み重ねていきたいと考えています。ひとはくの活動に、より多くの人たちが加わって下さることを期待します。

20周年記念スペシャルプログラム

地域に広がる

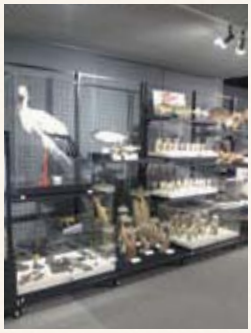
移動博物館車「ゆめはく」発進！

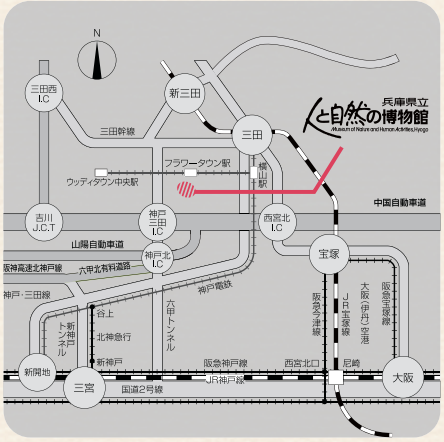
新しい移動博物館車「ゆめはく」が、標本や資料をのせてあなたの町に登場します。さまざまな展示やセミナーをご用意していますので、お楽しみに！

資料を魅せる

ひとはく多様性フロア ～魅せる収蔵庫トライアル OPEN!

開館以来２０年をかけて収集してきた多様な標本や資料を展示する新しいフロアが誕生します。「収蔵庫」と「学びの場」が融合した新しい演示の試みを、是非、来館して体験してみてください。





兵庫県立人と自然の博物館　20 年のあゆみとこれから

編集・発行　ひとはく 20 周年記念事業実行委員会
〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目
兵庫県立人と自然の博物館内
TEL：079-559-2001　FAX：079-559-2007
WEB：http://www.hitohaku.jp/
2012 年 10 月 13 日発行